

## 令和3年度(2021年度)第2回宗谷圏域障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会議事録

- 1 日 時 令和3年(2021年)11月24日(水) 13:30~15:15
- 2 場 所 宗谷合同庁舎4階 大会議室
- 3 出席者 別添「出席者名簿」のとおり
- 4 議 題 別添「次第」のとおり
- 5 資 料 別添のとおり

### 6 挨 拶

影山社会福祉課長より開会の挨拶を行った。

### 7 議 事

#### (1) 報告事項

地域課題解決に向けた取り組み実施の進捗状況について、資料1のとおり事務局より説明を行った。

資料1の2(3)に関連して、コロナ禍で中止されている毎年恒例のイベントが復活する際には、早い段階で参加を検討する目的で、事務局への情報提供を委員に依頼した。

併せて、事務局では毎年恒例のイベントとして「ふくしフェスタ」「手をつなぐ子らの作品展」を把握している旨を説明した。

続けて、委員会のホームページ及び宗谷総合振興局のSNSについて、資料2のとおり事務局より説明を行った。

#### (2) 協議事項

地域づくり委員会のホームページによる広報の案について、資料3のとおり事務局より説明を行った。

#### (3) 協議事項について各委員等からの意見

〈加藤委員〉

前回から、速いペースで資料化したり、連携したり、取り組みを形にしている、素晴らしい前進だなと思う。

それを踏まえた上で、3点ほど、気づいたことを、お話す。

一つ目は、統括の観点から。

資料2-1の、太線に挟まれている一番上にある、宗谷圏域障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会ってなんだろうというところの、「市町村などと連携し、障がい者が受けた差別や虐待などの解決に向けた、協議あっせんを行います。また障がい者の、地域生活を支えるサービスや暮らしづらさに関するご相談もお受けします。」というところが最初に見える。で、ここに最初に来た人、市町村とか団体であったり、保護者の方であったり、本人であったり、様々な立場にある人が、このホームページからは何をやることができるのか。

義務教育の場合は、障がいに関わるサービスを受けたいという、私はちょっと辛いとかってことを感じだす10歳前の子どもたちは、大体は保護者の方に、小学校高学年、中学校になっても、本人が発信できるのって、大体の担任の先生とか、学校で話しやすい人ってところが、一番最初に触れるところになると思う。そこから児童相談所とか、教育委員とか。

言いたいことは、受け手の人はここから入って、どこに行ったらいいのか、どこに相談したら、これからどうしていいのかというのを一緒に考えてるのかというあたりが、これからだなと感じた。

入口はいっぱいあるけれども、どこからかで悩んでいる人もいる。そういう点で言えば今回の宗谷管内就労支援事業所に関わることの窓口として、学校とか保護者の方が、どん

なところがあるのだろうということを、ここからスタートしたら、道が見えるかなということを感じた。

2つ目は感想と意見がある。

一つは、情報を知るという時は、その人にとって受動的で、耳で聞いたり、SNSとかサイトに行って、それを受けることができる人と、できない人とがいる。前回の委員会の時には、アナログの方がいいという意見も出ていたと思う。それで、FMわっぴ〜を結構聞くと思っている。文字ベースとかインターネットベースで、そこに行かない人がいるのかなと思った。

FMわっぴ〜っていうと稚内市だけでしょうか。稚内市では、福祉に関わることを毎日のように発信していると、車に乗っていたら感じるので、そこがこれからも媒体としてあり得るのかなと思ったのと、その地域の新聞とか市の広報は必ず見る方もいると思う。

もう一つは、その受け皿。情報を知って、今度は実際に相談したりサービスを受けるといふ、能動的に行動しなければならないとなった時に、何か自分の口を使ったり、メールで打ったりして発信するには、聞くだけよりも1つ壁がある、ハードルがあると思うので、そこを、うまくつなげるような手立てはなんだろうと考えている。

そして最後3つ目。さっき触れた「手をつなぐ子らの作品展」は、ご存知のように、障がいのある子どもたちの作品を、バーター形式でしている。

今回コロナ禍で一番最初に、守っていくために注視しなければいけない、いろいろな障がいを持つてる子、病弱の子とかもいるので、やり方を変えながら、それこそ、インターネットを使いながら、販売したり、作品を紹介しあったりというコミュニケーションをとった。

これも、宗谷管内の、いろいろなところから集まって一同に会するというのは、移動の問題とか、教員の仕事量とか、いろいろな面で、なかなか簡単にはできないことなので、少しやり方を見直していく。

やること自体の意義は、とても強くあるということで、分散して各市町村でやっていくのがいいのかとか、話し合ってるところなので、ぜひいろいろなところで、ご意見、ヘルプ、サポートをいただいて、これからも続けていってほしいと思う。

〈大谷推進員〉

最初におっしゃったことは、なるほどと思った。

例えば、地域づくり委員会って聞いたことあるけど、それって何だろうと思って見たら、これで大丈夫なんだけれども、そうではなくって、相談先があることもわからない方には、地域づくり委員会がありますよっていったら、なるほどとなる思ったが、どうでしょうか。

地域づくり委員会のページに行くまでに、例えば、相談ができるページの一つというのが事前にあるということと私はとったけれど、多分それは総合振興局で、地域づくり委員会ってものを、こういうことですよって説明しているところなので、これはこれでもちろんいいけど、その前に、例えば市町村と連携しながら相談とかもできる場所の一つとして、地域づくり委員会っていうところもあるとわかるということと、私は理解した。

〈加藤委員〉

それもある。もう一方では、スタートは、統括はここだという、窓口の入口はここで、ここから、市町村と連携していくという感じで受け取れる。

〈影山課長〉

一義的には、障がいに関する制度の利用を含めて、窓口というのは市町村になる。また北海道障がい者条例に基づいて、地域相談員という者を各市町村に配置している。

制度を利用する方の基本的な身近な困り事とか、そういったことも含めて一義的には市

町村が窓口という形になる。

この地域づくり委員会は、そういったところでなかなか解決が難しいような、暮らしづらさの課題だとか、暮らしづらさの原因になる相手方、企業であったり個人であったり、そういったところとなかなか解決が図れないことについて、本人からの申立てなどに基づき、解決策を協議して、あっせん調整する、そういった役割の委員会。

まず、一義的な部分は、やはり市町村になるので、ここからさらにどこ、というページの作りになっていない。あくまでも、地域づくり委員会っていうものがありますよというページになってしまっている。大谷推進員が言われたように、まずは一番最初にたどり着いたところから、そこでどこに相談したらいいのか、そういうのがあれば、一番いいのかもしれないけれども、現状では、申し訳ないけどそういった作りにはなっていない。ここから、市町村のそういった場合は、どこに相談したらいいのかというのではなくて、逆のイメージ。

まずは、身近な市町村の窓口、障がい福祉担当している部署あるいは相談支援事業所、相談の窓口、あるいは機関があるので、そちらとなる。そこでなかなか解決できない部分の対応をするために、振興局単位で作られたのがこの地域づくり委員会で、その制度を紹介する形のページという作りになっている。

そして、補足として、今回提案したこの就労支援事業所のホームページ、これ実は、前回の委員会の中で、就労支援事業所の授産製品とか、あるいは受注業務だけ行っている就労支援事業所、そういった事業所が一同に会したイベントをやるというのから、この話は始まっている。

宗谷総合振興局の庁舎では、定期的に1階のロビーを使って、去年はコロナ禍というのもありなかなかできなかったけれども、サロベツマイハートさん、わっかない・ここさん、手作り工房どーなつさんに、授産製品の販売をさせていただいている。

管内の事業者すべて集めて、そういったPRをできないかというのが事の発端で、去年今年、コロナ禍で、そういった人を集めるイベントは難しいだろうと。だからやらないというのではなくて、前回の委員会であった、インターネットを使ったバザール的なことならできないのではないかという意見からヒントを得て、じゃあ就労支援事業所が販売している授産製品、あるいは受注業務、最初、イベントとしてやろうとしていたものを、今後コロナ禍が解消されるまで何もやらないというのじゃなくて、まずはできることからやってみようという話で、事務局で考えたのが、要は、全国の就労支援事業所のデータを紹介するナイスハートネットをご存知かと思うけれども、その宗谷版みたいなイメージがある。

ナイスハートネットは、きちんとした立派な紹介ページだけど、検索して、絞り込んで地域も選択しないと宗谷管内の事業所にたどり着かないし、残念ながら全部の事業所が参加している状態でないというがあるので、まず宗谷管内の事業所だけ、社会福祉課のページで載せるような格好でやってみようかと事務局で考えたのが、今回の就労支援事業所のPR。なので、利用者目線という部分では、実際に就労支援事業所自体を将来的に利用される立場の方の参考にもなるかもしれないが、そういった方を最初は想定してなくて、地域課題に昨年追加した、「障がい（児）者と地域住民の相互理解」という部分で、一般の方に広く、一人でも多くの一般の方にこういった事業所があるということと、こういったものを売ったり、作ったり、こういった業務をやっていると、地域だけの事業所が実はあるというのをPRしたいなというのがあって、残念ながら、うちの課のホームページは、ほとんど誰も見に来ないという現実なので、できた際には、当然報道機関に発表して取り上げていただいて、ちょっとアクセスして、その中からさらに貼っているURLから見ただいて、受注にまで繋がるかどうかかわからないけれども、売上アップにつながれ

ば、当然工賃のアップにもつながるので、微々たるものかもしれないけども、そういったものがあって提案させていただいた。

まずはそういった目線を含めて、ご意見いただきたい。

あと、事務局も時間のない中作ったもので、あとホームページの制約があって、やはり一般の方だけではなくて、利用者が見ると想定した作りもしなければならぬなど、加藤委員のお話を聞きながら思ったが、そうすると、文字の大きさや、ルビとか、というのも出てくるのかなど。

残念ながら、宗谷総合振興局のホームページのシステムの制約上、なかなか難しい部分もあるけれども、そういった目線も含めて、ご意見いただければ、検討させていただきたいと思う。

まずはやはりタイトルで、単純に宗谷管内就労支援事業所って、こんなの検索しないとヒットしてこない。もうちょっとキャッチーと言ったら変だけど、そういったところも含めて、いい案というか、ご意見をいただけたらと思う。

〈加藤委員〉

委員会開催が少なかった中で、PLANしたことをすごく早くDOして、そしてその上で、どこを見たらいいのかというのが、先ほど影山課長の説明がとてもよい。

窓口は基本市町村で、そこはどこなのかつながらる書き方であればよいと思うし、この委員会の目的と役割がはっきりわかる説明だったので、それが載っていたらいいなと思った。

そして、後半の方に言っていただいた部分、たどってきた人、興味のある人、ボランティアしたい人とか、何か関わりながらやっていきたい人や、やっぱりサービスを利用したい人や、サービスや内容をあっせんしたい人や、これを見る興味のある人に、ヒットするキャッチが見つかればいいなと思った。

〈大谷推進員〉

先ほど課長がおっしゃったように、ネーミングを何とか書いて、そのあとかつこして就労支援事業所ですよってというのは必要だと思うが、どうでしょうかね。

このページにやわらかい説明があって、就労支援事業所のことですよって説明をつけると、入りやすいかもしれない。言葉だけでもなんだろうって思うかもしれない。そんなのもみなさんから募ってもいいのでしょうかね。

ということなのでこれなら興味がわく、ん？って思うのではないかっていうのがあれば考えてみてください。報道機関にはFMわっぴ〜入っているので、FMわっぴ〜にも取材して、取りあげていただければいいなと思う。

〈新田委員〉

事務局の説明をふまえて、まず、このように宗谷総合振興局として、ホームページを作成し、周知に取り組まれるということが、大変素晴らしい取組だと考える。

補足説明の中で、このような取組を実施しようとした最初の考え方や、ネーミング等の説明もあったが、少し意見させていただく。今回示された資料（案）では、障害福祉サービスでいう就労継続支援B型事業所だけに限った形になっている。ご存じの人も多いかと思うが、就労支援事業所には、B型の他に移行支援などのサービスもある。最初の考え方としては、宗谷管内のB型事業所でどのような授産製品を販売している、という情報発信に重きを置き考えられたと思われるが、利用者や多くの人に知ってもらうという観点では、もう少し整理が必要かと感じた。

稚内市では、施設に通所する方の交通費を一部助成する施設通所支援事業を実施している。隣の豊富町にあるサロベツマイハートに通所する方も対象としている。

このように振興局で情報発信をしてもらえると、例えば養護学校の生徒などの卒業後の進路の選択肢の情報取得機会が増えることとなる。

この度の資料では、例えば、サロベツマイハートでは、販売品目が手作りパン・創作パン、受注作業は空白になっているが、花の苗の栽培やほかの部分もあると思うので、情報の整理が必要と感じる。

キャッチコピー的なものは今、この場で何というものは提案できないが、説明にもあつたとおり、利用者や支援者などが、閲覧するときにわかりやすい形にすることは、とても重要と思う。

〈大谷推進員〉

確かに就労移行もそうだし、宗谷管内にA型がないことをわざわざ書くのも変だが、ちゃんとしたらそうかもしれない。

各事業所から出していただいたコメントとかは、字数の制限があつて、多分みんな苦労されていると思う。わからない・こども出しているけど、10文字で自分の紹介するってすごく難しく、いろんなこと言いたいけれども、最低限のものってことなので、短かったかなと改めて思った。書きたいことはいっぱいあると思うけど、字数は10文字とのことなので、そこにまとめるってすごく難しいけれど、なんとかやっていたらいい。

あとは、随時、更新とか変更可能で、字数とかも全体的に上げることはあるか。

〈大橋主査〉

運営を始めてみないとわからないというところがある。

〈影山課長〉

実際に作って、仮でとりあえずそこはまだ広げる余地がある。ただ、字数多くなればなるほどページが長くなって、下のところまで行かないデメリットが出てくるので、まずこれでスタートするけど、随時良くなるようにしていきましょうっていう感じで、していきませんか。

〈大橋主査〉

よりよい形になるよう検討していきたいと思う。

〈池田委員〉

このページのアクセスについて、ちょっと確認をしたい。

QRコードやURLがあれば、ここの就労支援事業者のページに一発でたどりつけるのでそこはいいかなと思ったが、仮に振興局のホームページのトップからアクセスした時に、資料だと保健環境部社会福祉課に行って、就労支援事業所っていうふうに行くと思うが、多分一般の方はこのようにいくのが難しいのかなと思い、今ホームページ見ていて、カテゴリーから探すという、福祉というところに入って、高齢者介護、障がい者というところからのリンクをたどるのが一般的なアクセスの方法になるのかなと。

スマホの画面だと、更新が新しいものが上に、古いものが下に来るという形になっているが、仮にこの就労支援事業所のページを作りましたっていうのがどんどん古くなってくると、結構スクロールしないとたどり着けないとかという問題が出てくるのかなと思った。なるべくアクセスを増やしたいのであれば、システムの上の方に上げたりするかなと思っっているが、そのあたりの、アクセスの方法というのはどうなるのか、お聞きしたかった。

〈大橋主査〉

今、皆様からご意見を聞いて、その部分も考えなければならないと思っっている。

〈影山課長〉

課ごとにページを操作する権限を制限されているので、社会福祉課から好きに操作できるのは、社会福祉課トップページで、まず、当然そこには、目立つ形で就労支援事業者ページとか、あるいは地域づくり委員会のページだとかを、常に上にあるような形にはできる。

その辺は当然検討したいと思うけれども、一般の方が、例えば宗谷総合振興局のトップに来た時に、パッと目につくってというのは、なかなか難しい部分もあるので、今ご意見いただいたとおり、定期的に更新すれば、そういった新着情報のところや、その次のような形になって、そこはやはり常々やっていかなければならないかなと思う。

〈千葉委員〉

このページには制約があると事務局がおっしゃっていたので、厳しいかもしれないけれど、可能であれば、障害者優先調達推進法の普及啓発、説明をしてくれると、授産製品の売上等を含めて、障がい者、事業所または利用者の日中活動及び就労支援が、有意義になるのではないかなと思った。賛否両論あると思うけれど。

障害者優先調達推進法の説明が、一番最後までもいいけど、どこかにちょっとあれば、事業者としてはありがたいと思う。

〈大橋主査〉

検討したいと思う。

〈内田委員〉

今、事業者として製品の製造販売をしている。千葉委員がおっしゃったとおり、障害者優先調達推進法を、市町村からあっせんしてもらえると、この過疎の地域では、非常に嬉しいことで、その後押しがあって仕事いただけると非常にありがたい。なので、そういったところの繋がりにある意味ミクロとして、もっとマクロとして考えた場合、宗谷管内全体の地域づくりを考えるフレームの中で、すべての話を統合的に突き詰めて考えると、障がい者の総合相談支援になるのではないかなと思う。それに対する、地域づくり委員会と総合相談支援の関係性の概要も盛り込むべきではないかと僕も考える。

大谷推進員、黒川地域づくりコーディネーターがおられるけれど、広い宗谷管内では、このお二方だけではそれを推進していくのは難しいので、僕らも各地域にいるので、活用させていただいて構わないし、各市町村の福祉の窓口、職員の方たちの協力も仰いでいくことも考えると、市町村と事業所、各種サービス支援関係機関との連携の部分の話を、地域づくり委員会の概要の中に、少し説明して盛り込んでいくべきではないか。

地域づくり委員会の概要としては、この文でおそらく網羅されているのではないかなと思うけど、もっと広いはず。

考える点としては、当事者が見て、この委員会は何をしてくれるんだって考えた時の説明を補足する。ないしは何らかの形で、社会福祉や、各団体や、各事業所、就労や、居住系や、保護系のサービスも含めた事業所との連携ということも含めて、やっていくとよいのではないかな。暮らしやすい地域づくりと言っている以上、暮らしやすい地域にしていくなために、暮らしやすさを得るためにどういった情報提供をしてくれるのかっていうことは、大事な部分ではないか。

北海道障がい者条例に基づき設置されているということで、宗谷圏域の障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会が、宗谷管内10市町村の社会福祉の窓口が各支援機関と連携して、障がい者が安心して豊かに暮らせるよう虐待差別などの解決というのは大事な視点だと思うけれども、解決に向けた取り組みとして協議あっせんを行う、暮らしづらさっていうのはどっちかってネガティブなイメージなので、障がい者の地域生活を支えるサービス情報提供や、暮らし全般に関する相談を受けていくというふうにすると、この委員会が果たす役割にも通じるのではないかな。その中で、障がい福祉の各サービスや、住居まい、就労支援、事業所の情報紹介や各市町村のまちづくりとも連携して、活動を推進していく、それと共に、地域課題を解決していくというのが、この委員会の役割ではないか。推進員と地域づくりコーディネーターを含め、今一度この地域づくり委員会のPRを再考させていただいて、今は就労支援事業所にスポットがあたって、その部分は僕らとしてもすごくあ

りがたいし、売上が上がることは、利用者の工賃に関連づく。ぜひ、就労支援の事業所のPRを皮切りに、他の事業所、各制度の紹介も含めて、つなげていって発展させていったほうがいいのではないかと。

〈大谷推進員〉

今回は事業所を集めて何かをやりましょう、それができないからってことで形になったけれども、それだけではなくて、委員会として他の役割だったり、相談支援事業っていうのはもちろん地域課題の中に入っているのです、そんなところも含めてお知らせできたら、より良い。

これも事務局の方で再検討してもらってよいか。

〈大橋主査〉

再検討する。

〈川口委員〉

宗谷圏域（障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会）のことは、養護学校の学期末に必ず説明がある。その説明する人に、こういうことがあるとPRをしてもらう形もあると思うのと、稚内市民ニュース（テレビ広報）、FMわっぴ〜でPRもありだと思う。

病院とかに、いやでも目に入るような派手なポスター作って配布するとか、図書館もいけれど、学校、保護者にPRするのも結構いいのではないと思う。

〈加藤委員〉

いいと思う。自分のニーズに合うところに行き着く道のりって、上手に自分でリンクを探していける人もいるけれど、できない人はできない。

〈川口委員〉

いろんな機会にということ、いいことだと思う。

コロナ禍が長く続いて、うちの子は自閉で、下の子はもっと難しく、外に出るとか、カレンダーで予定を組んで教えても、その時にはパターンが狂って、もう言うこと聞かなくて、動けない状態になっていて、いざそういう時になった時に、本人たちが、その気になってくれるか、その問題がすごい重大だと私は思う。この2年間で障がい者の暮らしは本当に変わってしまったので、そこを、事業所がどう働きかけられるかと。

事業所だけがやりますという形で声が出たというけれども、直接販売して利益を得る事業所ばかりでなく、サポート未広でうちの子はみみ取りだから関係ないような状態だし、事業所に対してやっているウエスでもないから。だからそここの事業所で考え方が全然違うから、売り上げが悪いってというのは、多分販売して利益を得ている事業所とそうでないとの違いかなと思って見ていた。

〈大谷推進員〉

もうちょっと字数があつたら、より多くの作業内容があるんだつたら、あるだけで紹介できればいい。事業所のそれぞれのHPとか見ていただくことを強調して、詳しくはそっちにありますよっていうことで見えるかなと思うけど、そこをもう一度、貴重なご意見たくさんいただいたので、考えてみましょう。

〈加藤委員〉

事務局が説明したように、最初はシンプルな方がいい部分もある。たくさん書いてたら、最後の方まで届かない。今大谷推進員がおっしゃったように、さらに詳しく知りたい人はもう一個押したら、詳しくあるってというのが一般的な気がする。

〈影山課長〉

最初はやはり直で行おうとしていた授産製品販売と受注作業のPRのイベントの代わりに、コロナ終わるまでイベント自体できないではなくて、その前に何かできることがないかと事務局で考えたら、正直申し上げて、事業所を紹介するためというよりは、事業所の

授産製品や受注作業のPRを主とした作りになっている。

本日委員の方からお話いただいた、利用者目線、こういった事業所があるんだ、こういったところを変えてみたい、そういった目線というのが正直欠けていて、そこまでちょっと想定していなかった。

今日いただいたご意見を踏まえて、何でもかんでも欲張りすぎたらボリュームがありすぎて、絶対下まで行かないと思うので、線引きも必要で、また、パーフェクトを目指していつまでもオープンしない、ということもあるので、やりながら、どんどんバージョンアップしていく。

そして、池田委員からあったように、定期的にバージョンアップして、その都度トピックス、新着情報に載るってということもあるので、カスタマイズしてどんどんよりよいものにしていくのも一つかなと。

なるべく早くオープンにしたいなというのもあり、妥協と言うとちょっと言い方悪いけれど、線引きして、まずはできる分でオープンにして、そこからどんどん、外部の方が見て、なかなかたどりつきづらい、どこにあるのみたいな、ご意見が当然出てくると思って、その都度、やりながら考えて少しずつよりよいものにしていきたいと考えている。

〈大谷推進員〉

あまり遅い時期にはならず、でももう一度ちょっと考えて良いものにとということ。

〈鈴木委員〉

皆様のお話も聞いてて、幅広く周知するためこのホームページがあるというのは、単純にすごくいいと、ここに行けば、11ヶ所全部にとんでいけるっていうのはすごくいいと思った。私も知らないところもあったりしたので、そういうところで考えると、興味がある人はその先に進んでいけるっていうのは、加藤委員もおっしゃっていたけれど、この案が出てるんであれば、もうホームページに載せて、皆様の意見聞きながら、内容を考えていくっていう、この委員会の役割とか、存在を知ってもらうために、まず進んでみたらいいのではないかと思った。

〈内田委員〉

今回、就労系事業所のPRの機会はチャンスなので、これを皮切りに、利用者の方、ご家族の方に、よりわかりやすく、その事業所が何を目指して、何を目標にやっているかという、理念や方針、あと支援の内容を含めての周知をしていけるようなところまでたどり着ければいいかなと思う。

実際、うちの事業所のホームページは、職員の声、利用者の声ということで、利用者も名前を出して、映像もそのままアップして、実際に事業所に入ってみての感想や思いや考えを発信している。それを見た方が、そういった事業所を見学しに行きたい、見にいきたいと思ってもらえることが実際にあって、情報発信の重要性と、事業所の支えがあって、地域生活がなんとかできる、そういう当事者やご家族の方たちのニーズに応えるというのが事業所の本分だと思うので、さらに推進していくことが大事。

インターネットだけではなくて、うちの事業所は一応アナログでも広報を毎月1回出している。各機関、ご家族、各市町村にお送りさせてもらっているけど、地道なそういう情報発信は事業所としても行っていかなければならないと思う。

あと今、先ほど川口委員からお話があった、自閉症や発達障がい、行動障がいのある方の支援というのは、やはり困難が伴う、専門性が必要であるということで、それができる事業所と難しい事業所があると思う。その有無についても、わかりやすい形で、それが事業所の、いわゆる力とか実績を示すものになるかはわからないけど、今、介護の事業所はもう第三者評価は義務になっていて、障がい福祉のサービスは介護の方と違って、第三者評価が義務づけられていないけど、遅かれ早かれなると思う。



障がい福祉事業所も、そういった形で自分たちの支援の専門性がどこにあるのかということをしっかり謳うべきだと思うし、そういったことを、これから、福祉サービスを利用される方たちに届けていきたい。

あと、学校の実習生がちょうど今来て、もう終わった頃合いで、今、福祉的就労か一般就労に向けての進路選択があつて、あと施設入所、進路を考えていく上でも、一案になれるような体験や見学を事業所としても行っていきたいと思う。その重要性は千葉委員のところの事業所もそうだと思うけれど。常に感じている。

改めて考えても、事業所同士で連携をしている部分があり、自分も古巣が稚内木馬館なので、お話を聞いたりするけれど、どの事業所を利用したらいいのかとか、難しいケースに直面している時の事業所同士の連携とかがあっていうのも、このネットワークで解決していかなければならないと思うし、そういったところをコーディネーターや推進員の方たちと調整できたらいいと思う。

〈大谷推進員〉

それぞれ事業所が、どういうことを伝えていかなければいけないっていうのは、そうかなと思う。

皆さんのいろんなご意見で、気づかなかつたことに気づかせていただいていることがたくさんあるので、おうちに帰ってからとか、言い忘れた、何かお気づきのことがあつたら、事務局の方に連絡いただければ、ありがたいと思う。

(閉会)